

T2 シリーズ

SSD/RAID/HDD/CLASSIC Elite/Pro/Express Elite 2/Pro 2/Express 2

INTELLIGENT DIGITAL DISK RECORDER

T2キャリングケースの使用について
JUL 2016

L2811607201
Jul 2016

T2の筐体設計の前提

下記の状態を想定し、T2は設計されています。

1. フラットな平面での水平置き（筐体の応力が均等に4箇所のゴム足にかかる状態）
2. 19インチラックでの支持状態

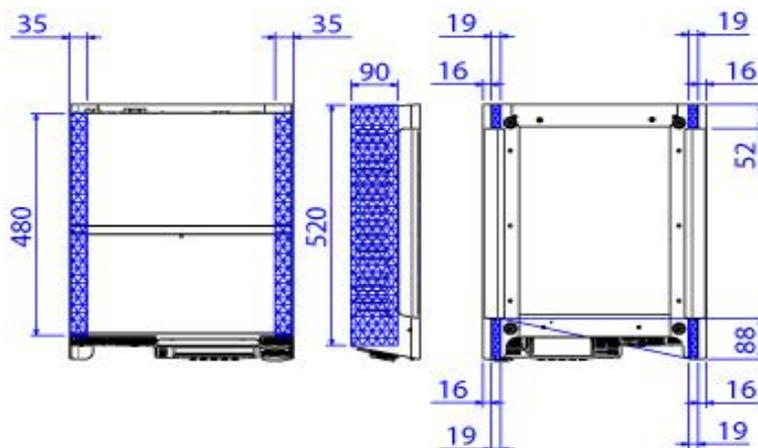
NOTE：T2の内部構造について

入力/出力基板、およびストレージ・コントローラ基板は、「メイン基板」に垂直に装着する構造となっており、「メイン基板」は底面の板金に沿って一体的に構成されています。その為、底板に負荷が加わると「メイン基板」にも応力がかかり、電気信号の接触不具合が生じる要因となります。筐体の重量は底板のゴム足（4箇所）で均等に分散されておりこの場合は「メイン基板」に応力がかからない構成となっています。

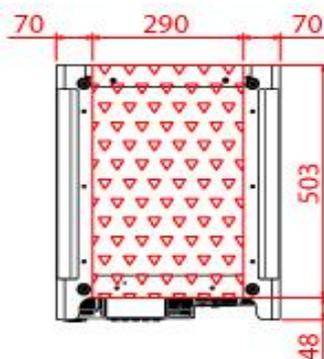
キャリングケース使用時の注意事項

1. 筐体荷重の応力は両端のアルミ板金で均等に支持する構造であること
 - T2キャリングケース使用時の筐体支持領域（ゴム足を装着している場合）

※前面・背面からの出し入れを想定した場合の支持領域

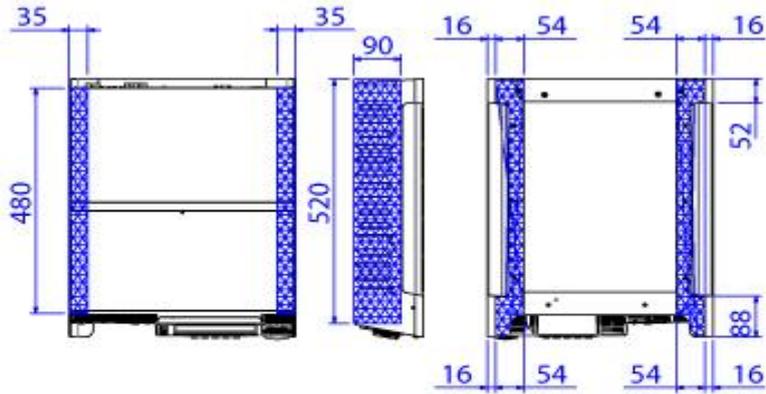


筐体支持 推奨領域(青色部分)
両端の銀色アルミ板金で支持

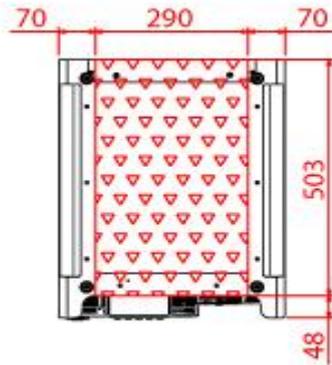


筐体支持 不可領域(赤色部分)
特に底面中央部のみでの支持は厳禁

- T2キャリングケース使用時の筐体支持領域（ゴム足を装着していない場合）
 ※前面・背面からの出し入れを想定した場合の支持領域



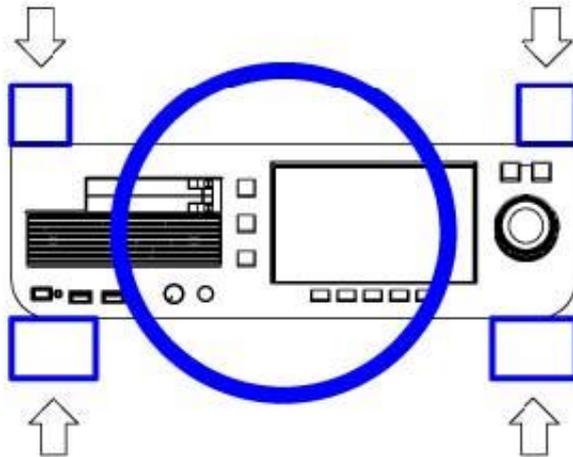
筐体支持 推奨領域(青色部分)
 両端の銀色アルミ板金で支持



筐体支持 不可領域(赤色部分)
 特に底面中央部のみでの支持は厳禁

2. メイン基板に応力がかかり、誤動作の要因となるため、底面や天面からの中央に偏った荷重は避けること。特に底面中央部での支持は厳禁

- キャリングケース使用時の負荷：良い例



両端で均等に負荷を支持

● キャリングケース使用時の負荷：悪い例



3. 筐体重量の応力バランス、および筐体からの放熱状態を確保するため、T2の動作はキャリングケースから取り出した状態で行うこと

NOTE：やむを得ずキャリングケース装着状態で動作させる場合

筐体からの排熱が不十分な場合、熱による誤動作の要因となるので、前面及び背面に十分な空間（目安は15cm以上）を設けること。更に側面、天面にも空気の流れる空間を設けること。

4. T2を横に倒した状態での頻繁な移動は行わないこと
5. T2を横に倒した状態で長期間の保存を行わないこと
6. T2を横に倒した状態での電源投入は行わないこと

NOTE：やむを得ず横置き状態で移動させる場合は、移動後速やかに水平置きにすること

推奨するキャリングケース

1. 「ラックマウントブラケット」と筐体背面部での「底面及び側面の支持」を併用した構造のキャリングケースが望ましい
2. 「ラックマウントブラケット」を使用しない場合においても両端アルミ板金で均等に負荷分散された状態のキャリングケースを使用すること

尚、内部のクッション材料は、硬質ポリウレタン等を使用する

推奨するキャリングケース事例

1. ラックマウントブラケットを支持する板金が付いている (黒色の板金)



2. T2を装着した状態 (ラックマウントブラケットでネジ止め)



3. 背面の底面で筐体を支持



以上